

日本聖公会

全国青年ネットワークニュース

日韓聖公会青年セミナー開催

来年はソウルで

八月十一日から十六日まで、河口湖畔にて、日本聖公会青年委員会と大韓聖公会韓日協働プロジェクトの共催により、日韓聖公会青年セミナーが行われた。テーマは「日韓聖公会の宣教課題と東アジアの平和」。二〇〇四年に日韓聖公会の交流が二十周

年を迎え、二〇〇五年に日韓聖公会青年交流キャンプが十周年を迎えたことを受け、これまでの、両国の過去の歴史を題材としたお互いが向き合うための交流にとどまらず、両国の歴史を踏まえた上で、「東アジアの平和」という同じ方向を向き、共に歩んでいく関係になつ



ていくことを期待して、今回のセミナーは開催された。

中央委員)による主題講演「聖公会の神学・宣教と公共性」により幕を開けた。聖公会の教会とはどんな教会なのか、聖公会の宣教とは何かを「公共性」という概念を用いて分かりやすくお話



(韓国の青年たちが伝統的な踊りを披露)

いただき、また、世界教会協議会(WCC)第九回総会に参加された報告を中心に、私たちの教会が世界とどのようにつながっているのか、どんな可能性があるのか、などを写真なども交えてお話いただいた。各国の青年たちが様々な役割を担い、活躍していたという報告を通して、私たち青年が大きなパワーと可能性を持っているというこ

いて考えさせられた。プログラムの中心は、セミナーに先駆けて行われた事前研修を通して決めたテーマに基づき、それぞれが準備を進めていった。日本聖公会からは、「改憲」「在日外国人」「基地問題」。大韓聖公会からは、「イラク派兵問題」「外国人労働者」「青年文化」。それぞれ抱える問題や問題の背景、国の状況や取り組みと、教会での取り組みなどについて

最終日に向け、両管区での話し合いを受け、代表者がまとめるという手順で共同声明文の作成が行われた。最終日に起草委員会から提出された文案をめぐって、閉会時間を三時間も越えての話し合いが行われた。「私たちは、八月十五日に日本の小泉純一郎首相が靖国神社に公式参拝したこと」に厳重に抗議する」という文言を声明に加えるか否かがその争点であった。共に五泊六日を過ごし、靖国神社を訪れ、想いを分かち合えたと感じていたにも関わらずの出来事であり、靖国神社問題などについての理解や意識が違っているのだということを感じさせられることとなつた。

は、この文言を入れて共同声明が採択されることとなった。それぞれ異なる背景を持ち、異なった環境で生きている私たちが、共に歩んでいくこととはとても難しいことではあるが、重要なことであるのだと気づき、その小さな一歩を踏み出すことができたセミナーとなった。



全国青年ネットワークのブログ (http://youthmsk.exblog.jp/) を今年一月に立ち上げて、様々な情報を随時アップデートしています。どうぞご利用ください。